

## 解答

問一 虫が好きな陸は、キイロテントウが田町の帽子のつばについていたことに気づいて、見なかつたふりをしておりすぎよう決めたことを忘れてしまったから。

問二 昆虫がたくさんいる丘に田町を連れてきて、昆虫のよさを語ることができたことが、とてもうれしく、ほんらしい気持ち。

問三 昆虫に対する田町の様子が、昆虫仲間になれるうそで期待できるということ。

問四 (1) 学校に来ない田町が、自分の話を聞いて愉快そうに笑っているのを見たから。

(2) 愉快そうに自由な感じで笑っている田町を見て、なにかいやなことがあって学校に来られなくなつたのではないかと考えたから。

問五 標本にすると黄色い模様が消えて白くなるキボシカミキリのように、自分のひととことをきつかけに会話が消え、笑顔がなくなつてしまつたから。

問六 愉快そうに笑う田町に学校に来ない理由を聞いたせいで、おどおどした無口な女子にもどつたことを後悔したが、いっしょに楽しくすゞしていだのに、聞きたいことを聞かずに別れるほうが不自然に思えたから。

問七 自分が学校に行けないもどかしさと、そのことを陸にうまく説明できず理解が得られないことがもどかしいということ。

問八 気持ちがうまく伝わらずに、田町が陸との間に心の距離を感じていていうこと。

問九 昆虫の世界では小さいことが有利かもしれないが、のろくて小さな中学生の自分は、背が高い女子ばかりのクラスの中では居場所がないという気持ち。

問十 視界をひらりとかすめた蝶がコジヤノメではないかと期待し、興奮している。

問十一 自分の気持ちを打ちあけてくれた田町をはげます言葉をかけたかったのに、蝶のとりこになつてしまい、その間に田町がいなくなつてしまつたこと。

問十二 (1) 二人をつなぐ希望を感じさせる色。

(2) 田町の姿が消えたとき、陸も心がからっぽになつたから。

## 解説

一

問五 直前に「あのひととことをきつかけに、ふたりのあいだからは会話が消えた。」とあることから、「なんで学校に来ないの？」というひとことのせいで、愉快そうに笑っていた田町が、おどおどした目になり、無口な女子になつたことがわかります。また少し前の部分で、陸は、標本にしたキボシカミキリは、死んで黄色い模様が消えているため本来の姿ではないことを話しています。これらのことから、自分のひとことで、自由で愉快にしていった田町から笑顔が消えた変化を、死ぬと黄色い模様が消える標本のキボシカミキリのように感じたという内容を説明します。

問十一 傍線⑪の前後に「消えていたのは蝶だけではない。」「田町の姿が消えていた。」という記述があり、とりかえしのつかないへマの内容がわかります。陸はせつから気持ちを打ちあけてくれた田町をはげます言葉を探していたが、視界をかすめた蝶に気をとられてしまい、その間に田町がいなくなつてしまつたということを説明します。

二

① 河川 ② 首脳 ③ 批評 ④ 基幹 ⑤ 操縦 ⑥ 謝恩 ⑦ 陸橋 ⑧ 精算  
 ⑨ 照葉 ⑩ 祝辞 ⑪ 誠実 ⑫ 質素 ⑬ 鉱物 ⑭ 思案 ⑮ 経路 ⑯ らくよう  
 ひたい ⑭ たば 「ねる」 ⑯ いんどう ⑰ しゅうもく